国別心学 舎数地図

あなたの街に も心学講舎

心学舎は幾つあったか

江戸時代、心学講舎は京都の明倫舎、修正舎、時習舎の三舎の総意の元に正式に創設が認可された。そしてその証左として、舎号が与えられ、梅岩先生・堵庵先生の直筆書（後年は石刻）、舎号を記載した明倫舎主の書、講舎利用心得等諸規則が与えられた。

しかし、心学舎数が幾つあったかについての定説はない。

最も権威があるものは、京都の明倫舎より何回も発行されている『諸国舎号』であろう。その最終版には百七十舎の名前が掲載されている。最終行が慶応元年（一八六五年）創設の謹身舎（美濃）となっている。

また石川謙著『石門心学史の研究』の索引には百八十一舎が掲載されている。

「国別心学舎数地図」に百八十二舎を記載

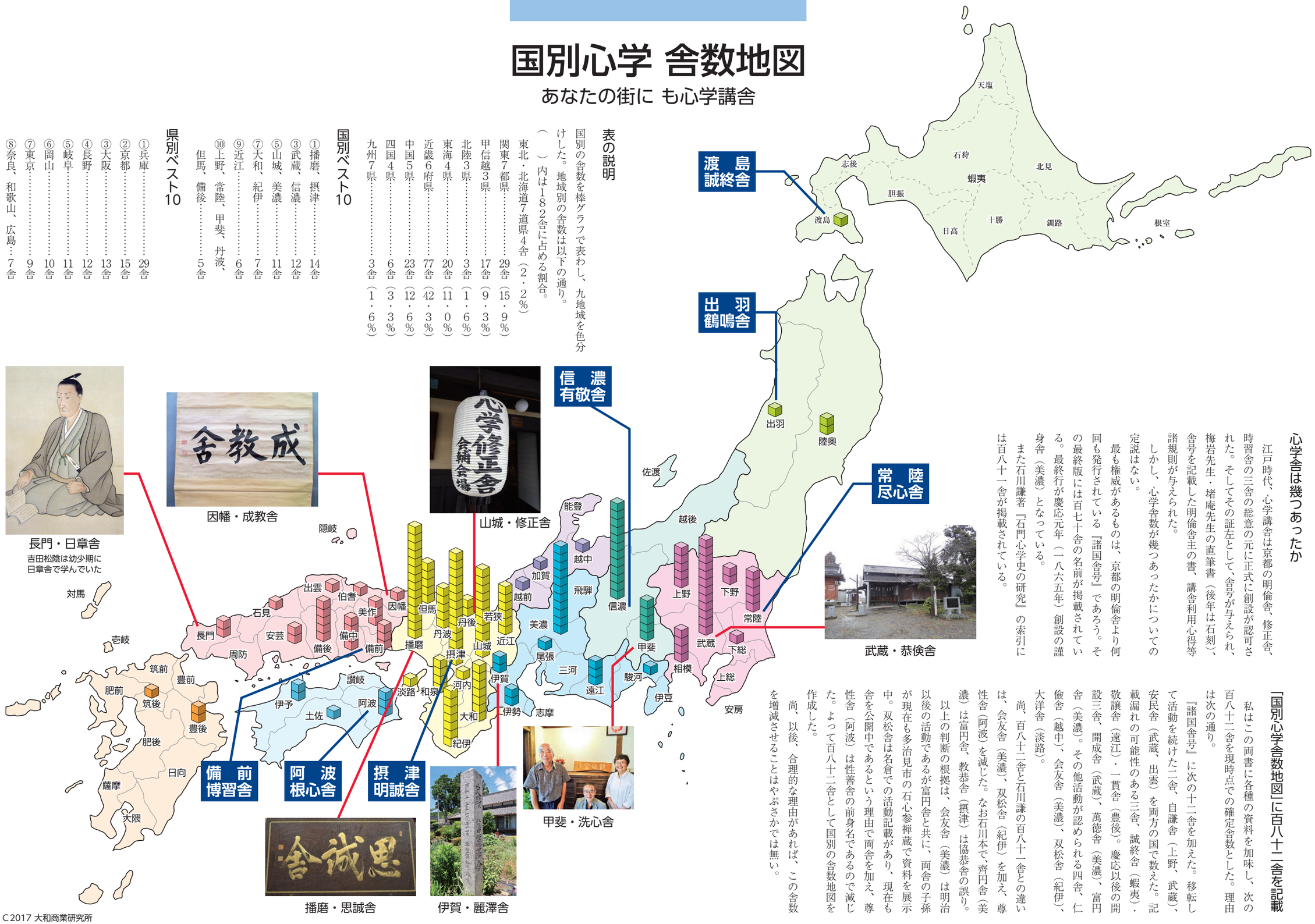
私はこの両書に各種の資料を加味し、次の百八十二舎を現時点での確定舎数とした。理由は次の通り。

『諸国舎号』に次の十二舎を加えた。移転して活動を続けた二舎、自謙舎（上野、武蔵）、安民舎（武蔵、出雲）を両方の国で数えた。記載漏れの可能性のある三舎、誠終舎（蝦夷）・敬譲舎（遠江）・一貫舎（豊後）。慶応以後の開設三舎、開成舎（武蔵）、萬徳舎（美濃）、富円舎（美濃）。その他活動が認められる四舎、仁儉舎（越中）、会友舎（美濃）、双松舎（紀伊）、大洋舎（淡路）。

尚、百八十二舎と石川謙の百八十一舎との違いは、会友舎（美濃）、双松舎（紀伊）を加え、尊性舎（阿波）を減じた。なお石川本で、齊円舎（美濃）は富円舎、教恭舎（摂津）は協恭舎の誤り。

以上の判断の根拠は、会友舎（美濃）は明治以後の活動であるが富円舎と共に、両舎の子孫が現在も多治見市の石心参禅蔵で資料を展示中。双松舎は名倉での活動記載があり、現在も舎を公開中であるという理由で両舎を加え、尊性舎（阿波）は性善舎の前身名であるので減じた。よって百八十二舎として国別の舎数地図を作成した。

尚、以後、合理的な理由があれば、この舎数を増減させることはやぶさかでは無い。



C2017 大和商業研究所

表の説明

国別の舎数を棒グラフで表わし、九地域を色分けした。地域別の舎数は以下の通り。

（　）内は182舎に占める割合。

東北・北海道7道県4舎（2・2%）
関東7都県……29舎（15・9%）
甲信越3県……17舎（9・3%）
北陸3県……3舎（1・6%）
東海4県……20舎（11・0%）
近畿6府県……77舎（42・3%）
中国5県……23舎（12・6%）
四国4県……6舎（3・3%）
九州7県……3舎（1・6%）

国別ベスト10

①播磨、摂津……14舎
③武蔵、信濃……12舎
⑤山城、美濃……11舎
⑦大和、紀伊……7舎
⑨近江……6舎
⑩上野、常陸、甲斐、丹波、但馬、備後……5舎

県別ベスト10

①兵庫……29舎
②京都……15舎
③大阪……13舎
④長野……12舎
⑤岐阜……11舎
⑥岡山……10舎
⑦東京……9舎
⑧奈良、和歌山、広島…7舎